

② II 第2 ガス漏れ火災警報設備

第2 ガス漏れ火災警報設備（令第21条の2）

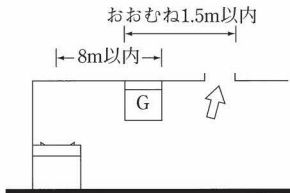
2.1 設置を要する防火対象物

(1)

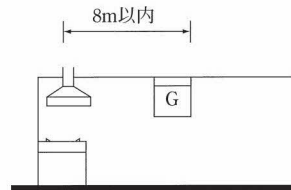
規 模 等	一	般
防火対象物		
(1)項～(4)項・(5)項イ・(6)項・(9)項イ	地階の床面積の合計1,000㎡以上	
(6)項イ	地階の床面積の合計1,000㎡以上で特定用途の合計500㎡以上	
(16の2)項	延べ面積1,000㎡以上	
(16の3)項	延べ面積1,000㎡以上で特定用途の合計500㎡以上	
令別表第1に掲げる建築物その他の工作物（収容人員が総務省令で定める数に満たないものを除く。）で、その内部に、温泉の採取のための設備で総務省令で定めるもの（温泉法（昭和23年法律第125号）第14条の5第1項の確認を受けた者が当該確認に係る温泉の採取の場所において温泉を採取するための設備を除く。）が設置されているもの	全部	

2.2 検知器の設け方（検知対象ガスの比重：1未満） 指導（S 59.151）

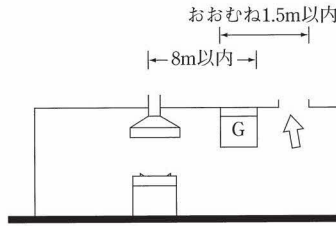
例1 2.2 図1 から図3 までのように設けること。



2.2 図1

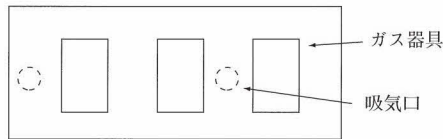


2.2 図2

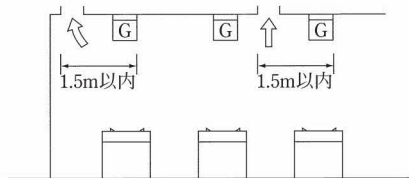


2.2 図3

例2 2.2 図4 の場合には、燃焼器と吸気口との中間で、吸気口からおおむね1.5m以内、かつ、燃焼器から漏れたガスを有効に検知できる位置に検知器を2.2 図5 のように3個設置する必要がある。 指導（S59.109）



2.2 図4 (平面図)

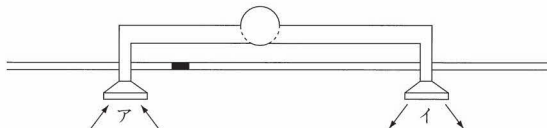


2.2 図5 (立面図)

例3 貫通部から水平距離8m以内の部分すべてが「外部の気流が頻繁に流通する場所」である場合には、検知器を設置する必要がない。

指導（S59.109）

例4 1室に天井設置のファンコイルのみ設置されている場合には、吸気口アのおおむね1.5m以内に設置すること。 指導（S59.151）

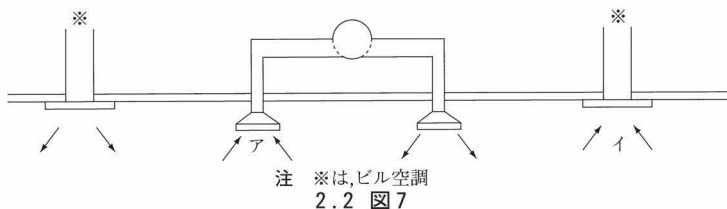


2.2 図6

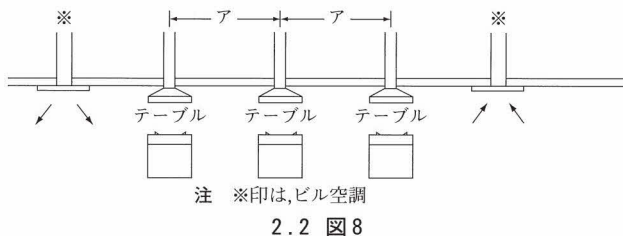
例5 1室に空調設備とファンコイルが設置されている場合には、燃焼器から

② II 第2 ガス漏れ火災警報設備

最も近い吸気口（ア又はイ）の方に設置すること。 指導（S59.151）



例6 焼き肉テーブルごとに吸気口があり、この吸気口をテーブルの使用に応じて稼働させる場合には、燃焼器から最も近い各吸気口のガスの流動方向に検知器を設置すること。 指導（S59.151）



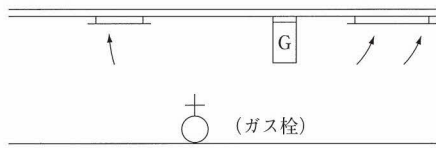
注 アの距離がおおむね3m以下であれば2個、3mを超える場合は3個の検知器を設置する必要がある。

例7 吸気口と燃焼器との間に吹き出し口があり、吸気口と吹き出し口との距離が1.5m以内であっても、吸気口直近に検知器を設けること。 指導（S59.151）

例8 燃焼器の付近に（給、排）両用型と専用型の吸気口がある場合には、燃焼器に最も近い方の吸気口の付近に設置すること。 指導（S59.151）

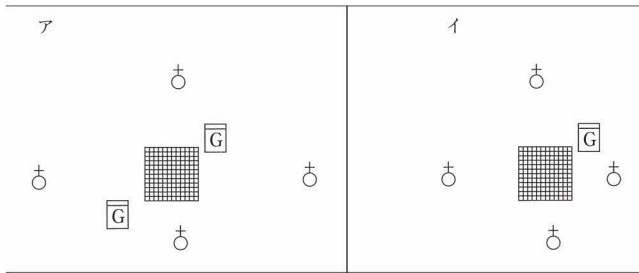
例9 給排気両用型の換気扇が設けられている場合には、両用型であっても「吸気口」である。 指導（S59.151）

例10 燃焼器に近い方よりも、遠い方の吸気口の吸引力が強い場合には、能力の強弱に無関係に、燃焼器に最も近い吸気口付近に検知器を設置すること。ただし、それらの吸気口が燃焼器からほぼ等距離にある場合は、強い方の付近に検知器を設置すること。 指導（S59.151）



2.2 図9

例11 吸気口の周囲にガス栓がある場合には、アのように検知器を設置すること。イの例は、認められない。 指導（S59.151）

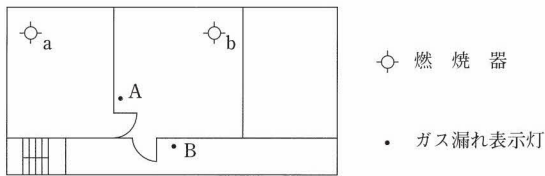


2.2 図10

2.3 表示灯の設け方

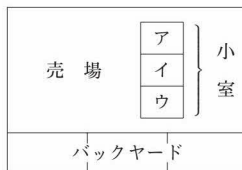
例1 2.3 図1 の場合には、a 及びb に対してBにのみ表示灯が必要。

なお、a、bが判別できるように設置すること。 指導（S59.3）（S59.3.10消防予46）



2.3 図1

例2 2.3 図2 の小室アからウがそれぞれ床面積3～5㎡程度で、周囲三方がガラス張りになっている場合には、ガス漏れ表示灯の設置を要しない。



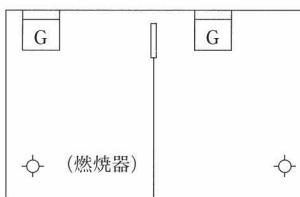
2.3 図2

2.4 検知区域の設定（検知対象ガスの比重：1未満）

例1 欄間等で1室を2室に仕切られている場合には、自火報の感知区域1.11により判定する。 指導（S59.151）

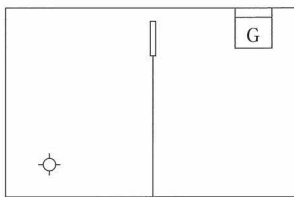
2.4 図1 の場合は、各々が検知区域として、2.4 図2 の場合は、2室で1検知区域として扱う。

② II 第2 ガス漏れ火災警報設備



(断面図)

2.4 図1



(断面図)

2.4 図2

例2 アコーディオンカーテン又はカーテンで、上方まで仕切られる場合は別の検知区域及び別の室として扱う。



(断面図)

2.4 図3